

## 2020年度第3回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:2021年4月9日(金)13:30~15:30
2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室  
各拠点のTV会議端末拠点及びSkype
3. 出席者:横山委員長、大久保委員、長沢委員、田澤委員、三宅委員、小林委員  
(※大久保委員はアメリカからSkypeで参加)
4. 審議概要:
  - (1)2020年度第2回契約監視委員会議事要旨の報告  
事務局より前回委員会議事要旨について報告があり、了承された。
  - (2)2020年度第2回契約監視委員会アクションアイテムの報告
    - ① はやぶさ2データ検索システムの制作について  
調達部より、資料2をもとに説明があり、了承された。委員からは、共同研究の相手先選定についても、あとで検証できるよう記録に残すようにしていただきたい旨の意見があった。
  - (3)2020年度調達等合理化計画の自己点検について  
調達部より、調達等合理化計画に基づく第3四半期までの随意契約や一者応札・応募の実績と、物品・役務の合理的調達に関する取組実績等について説明があった。委員からは、派遣の3年の上限撤廃について議論がなかったかの質問があり、上限については撤廃するが、派遣業法上の3年の期間を超えてコンプライアンス上の問題が生じないようにチェック機能を入れるといった措置を行う旨の回答があった。
  - (4)2020年度第3四半期に新規に締結した契約の点検  
2020年度第3四半期に新規に締結した随意契約及び一者応札・応募となった案件のうち、契約金額が大きいもの、複数の仕様書受領があったものを中心に点検を受けた。その結果、問題となる契約はなかった(個別案件ごとの点検内容は別紙のとおり)。

### その他

- ・次回の委員会は、6月14日に開催することとした。

## 第3回 2021年4月9日

競争性のない随意契約			3件	① 2020年代2030年代における打上げサービス市場の需要動向調査(2020年度) ② 種子島宇宙センター吉信射点(LP1・LP2)他セキュリティフェンス補修修理作業 ③ 2020年度JAXA宇宙状況把握(SSA)システムの整備に係る上齋原スペースガードセンター除雪作業(①車両等の供用、②除雪作業)
競争性のある随意契約			1件	④ 高精度測位システム搭載系機器のMIP評価支援
競争入札	一般競争	価格評価	1件	⑤ レーザ加熱材料評価装置の製作
企画競争			1件	⑥ 2020年度ISS・「きぼう」利用シンポジウムに関する企画・準備・運營業務

主な質疑等は以下のとおり。

① 2020年代2030年代における打上げサービス市場の需要動向調査(2020年度)  
 [競争性のない随意契約]

本件は、H3 ロケットおよびイプシロンロケット等の将来の機能・性能を検討するにあたり必要な、衛星打上げ需要とその特性の世界的な動向について調査することを目的に、2020年代から2030年代の打上げサービス市場の需要動向を調査するものである。

本契約については、過去に実施した調査と比較して、当時の状況からの変化を正しく把握できるように、過去の調査基準で既存データベースやシナリオを更新する必要があるが、過去の調査の際に使用されたデータベースや衛星市場を予測する長期予測モデルや解析手法等の技術情報を有しているのは、過去(2012年、2015年、2017年)に本調査を実施した当該選定業者に限定されることから、「人工衛星、ロケット等の飛翔体、航空機等又はこれらに係る設備の製造設備、製造技

術又は運用技術等を必要とする契約であって、当該設備又は技術を有する者が一に限定されるとき(契約事務実施要領第 69 条第 1 項(ウ))」を適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、2012 年に最初に選定業者に調査分析を出したとき、どのような競争的な比較等をされたのかについて質問があり、打上げ市場において欧米の競争相手と対抗できるような打ち上げ能力やコストを設定しなければいけないため、主要なところの情報を広く持っており、10 年の長いスパンで確度の高い解析ができるところを調査し、過去から報告書等で確度の高いデータを有している当該業者を選定したとの説明があった。これに対し、当時の随意契約理由書を確認したいとの要望があり、後日事務局に資料を提出することとなった(4 月 19 日委員に共有済)。

② 種子島宇宙センター吉信射点 (LP1・LP2) 他セキュリティーフエンス補修修理作業

[競争性のない随意契約]

本件は、2020 年 9 月 6 日に種子島近隣を通過した台風 10 号の影響により被災した吉信射点(LP1・LP2)他セキュリティーフエンスについて、今後の発射整備作業及び打上げに支障を来さないよう、早急に補修・修理を実施するものである。11 月 24 日の打上げ整備作業開始までにセキュリティーの確保が必要で、緊急で調達をかけなければ間に合わない状況であるため、フェンス材料の在庫を一部保有し、現場状況も詳細に把握して施工においても短期間に修理補修することが可能である当該業者以外に実施することが出来ないことから、「緊急の必要があるため、競争に付すことができないとき又は不利と認められるとき(契約事務実施要領第 69 条第 1 項(セ))」適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、他にこのフェンスを修理できる業者はいなかったのか質問があり、フェンスは射場の地形に合った仕様で、形状・構造が特殊なものであり、必要時期までに実施できるのは在庫を保有している当該業者しかいなかった旨回答があった。

③ 2020 年度 JAXA 宇宙状況把握(SSA)システムの整備に係る上齋原スペースガードセンター除雪作業(①車両等の供用、②除雪作業)

[競争性のない随意契約]

本件は、JAXA 宇宙状況把握(SSA)システムの整備にあたり、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター(以下、「JAEA」という。)内上齋原スペースガードセンター(以下、「KSGC」という。)の除雪作業を行うものである。JAEA が実施した除雪契約(入札)の作業対象に KSGC の敷地分は含まれて

おらず、JAEAへJAXAも含めて契約処理ができないか調整したものの、事後的な契約条件の変更は困難であり、また、JAXAがJAEAと同様の契約を除雪業者と結ぶ場合、契約額が高額となることから、JAEAとの借用契約(除雪車両の供用)と除雪業者との請負契約(除雪作業の実施)の2本に分けて行うものである。JAEAとの借用契約については、個別に調達する場合と比べて著しく費用を低減できることから、「随意契約によれば、時価に比べて著しく有利な価格をもって契約をすることができる見込みがあるとき(契約事務実施要領第69条第1項(タ))」を適用し、除雪業者との契約については、JAEA内除雪作業にて使用する車両等を共用するため、JAEAが当該契約履行にあたり業務を委託する提案業者でなければ本契約を実施できないことから、「現に契約履行中の工事、製造、役務の請負、物件の買入れ又は借りに直接関連する契約を現に履行中の契約者以外の者に履行させることが不利であるとき又は別箇に実施することができないとき(契約事務実施要領第69条第1項(ソ))」を適用し、随意契約としたとの説明が担当者よりあった。

委員からは、雪は毎年降っているが、これまでどうしていたかということと、今後どうするかについて質問があり、これまでは冬季にあまり作業が発生していなかったとし、次年度は共同調達を行う方向でJAEAと調整を行いたいと考えている旨説明があった。

また、説明と配布資料の整合性が取れていなかったため、資料を修正のうえ、後日事務局へ提出することとなった(4月19日委員に共有済)。

#### ④ 高精度測位システム搭載系機器のMIP評価支援

[競争性のある随意契約]

本件は、高精度測位システム搭載機器のフライトモデルに関して、開発請負業者及びその下請負業者に対して行う検査業務のうち、専門知識・技術が必要となる製造品質検査を支援するものである。本件の実施に関しては、宇宙環境における電子機器に対する信頼性評価、宇宙用電子機器の実装に係る専門知識・技術を有していること、宇宙機としての信頼性を確保するために必要な、品質検査支援を実施できる経験、能力と十分な体制を有している等が必要であり、提案業者は本業務を実施することが出来る唯一の業者であると考え、他業者が存在する可能性を排除しきれないため、参加者確認公募を行ったものである。結果として他に参加者がいなかったことから、「人工衛星、ロケット等の飛翔体、航空機等又はこれらに係る設備の製造設備、製造技術又は運用技術等を必要とする契約であって、当該設備又は技術を有する者が一に限定されるとき(契約事務実施要領第69条第1項(ウ))」を適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、随契はよろしくないの、参加者確認公募で可能性を探るとい

はわかるが、誰か応募するかの見込みがなく結果として一者しかないのであれば、随契を最初から検討してはどうかと意見がだされ、今後の検討としたい旨回答があった。また、選定業者について、会社の設立の経緯などについて、次回委員会で説明を行うこととなった。

#### ⑤ レーザ加熱材料評価装置の製作

[一般競争・価格評価方式]

本件は、CO2 レーザを使用して、ジェットエンジン用先進材料の熱衝撃試験や熱疲労試験を行うためのレーザ加熱材料評価装置を調達するものである。本装置導入の検討にあたって、加熱装置製作の実績がある国内メーカーを中心に事前ヒアリングを実施したものの、対応できる可能性があるとの回答が得られたのは1者のみであったが、代理店を介した海外製品による参画も期待し、入札により調達することとした。入札公告期間を21日確保したが、結果として一者応札となったものである。

一者応札となった要因としては、内容の側面では仕様は必要最低限な要求のみであり、期間の側面でも公告期間が著しく短かったとは言えず、興味あるメーカーにとって検討時間が無かったとは思えないため、特段の問題は無かったと考えている旨の説明が担当者からあった。

委員からは、海外から調達の可能性があったということだが、海外からの調達に関して技術的な問題があったのかどうか質問があり、海外のレーザでも国内でも大丈夫と考えていた旨の説明があった。

#### ⑦ 2020年度ISS・「きぼう」利用シンポジウムに関する企画・準備・運營業務

[企画競争]

本件は、討論などの形を通して JAXA 外から多様な意見をもらい、それらを幅広く一般の方々や研究者・事業者・政策立案者と共有することで、2025年以降のISS運用延長の機運の醸成することを目指す「2020年度ISS・「きぼう」利用シンポジウム」に関する企画・準備・運營業務を実施するものである。入札公告期間を39日確保し、複数社の説明書受領があったものの結果として一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、開催時期における人員配置が困難であったとの業者側の都合のほか、シンポジウム開催時点の新型コロナウイルスの感染状況が不透明であり、新型コロナウイルスの感染防止対策に関するリスクを業者が過大に評価したなどもその一因になったものと考えられ、今後は、業者側も新型コロナウイルスに対して適切なリスク評価が行われることを期待しつつ、公告期間を十分にとる

ことで適切な周知と準備期間を確保するとともに、要求事項の精査と可能な範囲での実施時期の範囲拡大を心がける旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、業者からの辞退理由に「提示予算内での要求事項の実現が困難」とあるが、今回の契約について、この予算額が MAX であったと分析をされているのかとの質問があり、去年も会場で人を集めるのと同時に WEB 配信を実施しているので、それほど変わらないだろうと去年の積算をベースに金額を積み上げており、金額としては妥当であったと考えている旨の説明が担当よりあった。

以 上